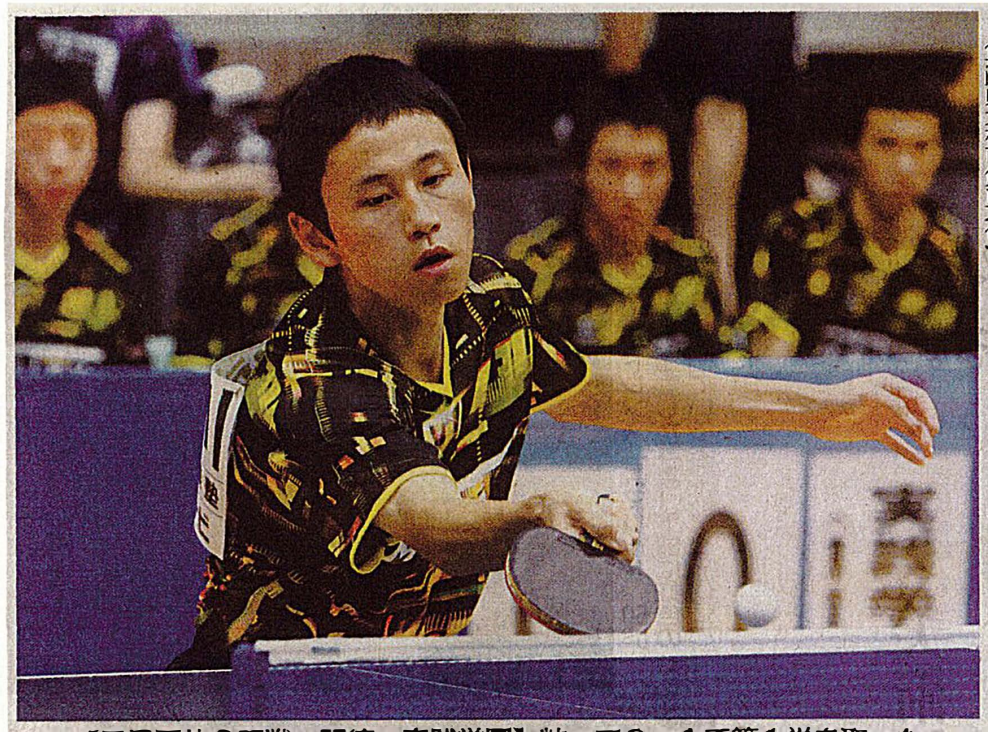
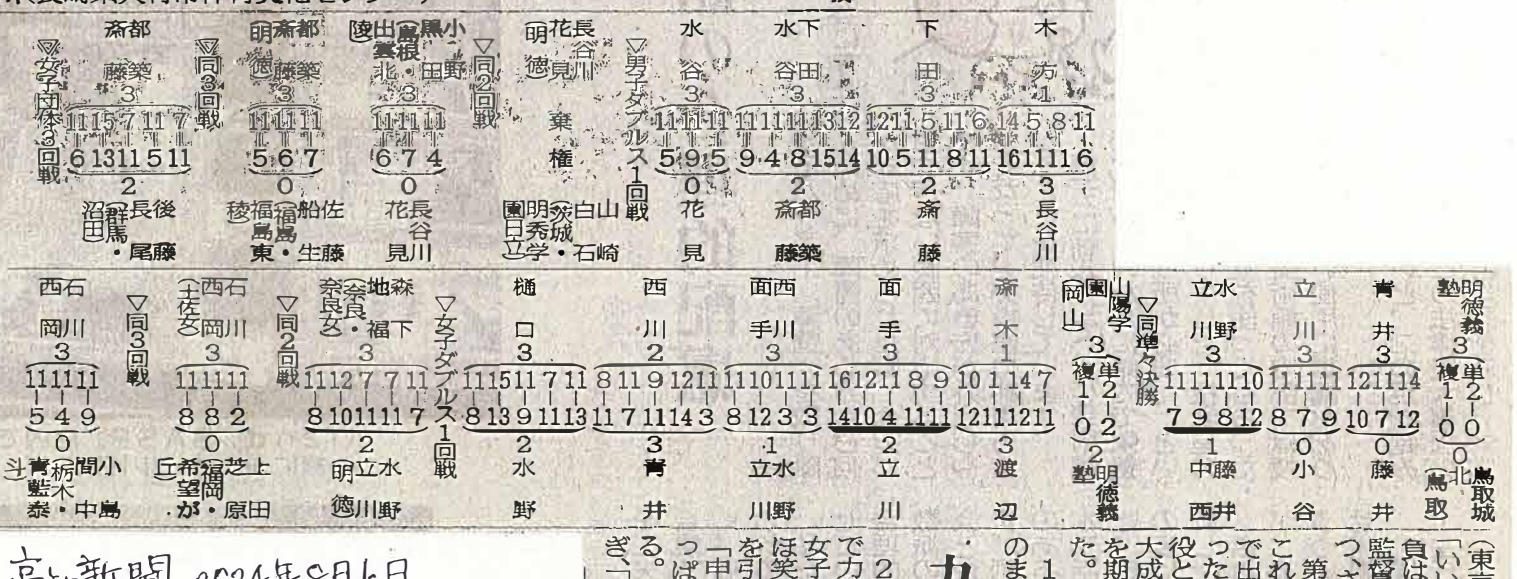
明徳女子 4強逃す

明徳男子は8強ならず

卓球（長崎県大村市体育文化セ）



【男子団体3回戦　明徳―実践学園】粘って3―1で第1単を取った明徳・長谷川（長崎県大村市体育文化センター）



（東京）の前に力尽きた。「いい試合をした。でも勝負は甘くない」。佐藤建剛監督は選手をねぎらいつつ、さらなる奮起を促す。

第1単の3年長谷川はこれまで、全国の団体戦で出場機会に恵まれなかった。今大会は盛り上げ役としてだけでなく、集大成の力を発揮することを期待されての起用だった。

1ゲーム先取され、「このままじゃチームの雰囲気が落ちる。相手より一球でも多く（コートに）入れる」と奮起。2ゲームを奪い返すと、最後のジュースも16―14で競り勝ち、「気持ちで負けなければ勝てる」と後輩に示した。

複で2―0から逆転負けした都築・斎藤も、直後の個人戦はフルゲームを制して16強進出。〝いい試合〟から〝いい試合をして勝つ〟へ―。鍛錬を続ける。（馬場　隼）

〝いい試合〟の先目指せ　男子

8強の昨年からメンバーが変わり、都築ら最上級生を中心にチーム力を高めてきた明徳男子。16強まで勝ち進んだが、全国選抜8強の実践学園（東京）の前に力尽きた。

「いい試合をした。でも勝負は甘くない」。佐藤建剛監督は選手をねぎらいつつ、さらなる奮起を促す。

第1単の3年長谷川はこれまで、全国の団体戦で出場機会に恵まれなかった。今大会は盛り上げ役としてだけでなく、集大成の力を発揮することを期待されての起用だった。

1ゲーム先取され、「このままじゃチームの雰囲気が落ちる。相手より一球でも多く（コートに）入れる」と奮起。2ゲームを奪い返すと、最後のジュースも16―14で競り勝ち、「気持ちで負けなければ勝てる」と後輩に示した。

複で2―0から逆転負けした都築・斎藤も、直後の個人戦はフルゲームを制して16強進出。〝いい試合〟から〝いい試合をして勝つ〟へ―。鍛錬を続ける。（馬場　隼）

力出し切った激闘　女子

2時間以上に及ぶ激闘で力を出し尽くした明徳女子に、勝利の女神はほほ笑まなかった。チームを引っ張った主将水野は「申し訳ない気持ちでいっぱい」と声を震わせる。そして言葉をつなぎ、「助けてもらってここまで来られた」と頼もしい後輩たちに感謝した。

準々決勝で顔を合わせた山陽学園（岡山）は、1月の全日本選手権ジュニアの部で準優勝した面手を擁する。この絶対的エースを第2単の1年立川が真っ向から追い詰めた。打ち合いを押し切り、ラリーからのミスも誘い11―9、11―8と連取。「（展開が）自分のいいようにに回り、力が発揮できた」。ところが、戦術を変えた面手の反撃で3ゲームを取り返された。

第1単は渡辺が勝ったものの、複を取られ崖っぷち。県体決勝の土佐女戦のように1―2からの逆転を狙い水野、青井に望みを託したが、2―3で競り負けた。

1、2年主体で、県体からの約2カ月で「力が随分伸びた」と佐藤利香監督。喜びも悲しみも分かち合い、成長する―。そんな伝統を胸に、前に進む。（馬場　隼）

高知新聞 2024年8月6日